

教養課程

「患者さんのQOL向上を目指す義歯とは」

デンチャーは生体からの「たわみ」「歪み」などに対応し、尚且つ維持装置は弾性に富み開いたら元に戻る。これが材料選択の第一原則ではないでしょうか。どんどん変形してしまう材料の選択はいかがなものでしょうか。今回はパーシャルデンチャーの分類及び材料の選択と欠損による基本的な設計（ペーパー）と患者さんのQOL向上のためのノンメタルクラスプデンチャーやレイヤーデンチャー（積層義歯）を解説したいと思う。

患者さんのQOLを向上するデンチャー製作するためには、患者さんの生涯を考え欠損歯に応じた設計しなければならない。元気に生きる大切な“第三の歯”を製作しなければならないと思います。近年デンチャーの製作は、考え方もいろいろあり、数多くの人工歯、レジン、メタル等がデンチャーの材料になるが口腔内で長期に使用して安心・安全な物性と強度を有し、加工しやすくテクニックエラーの少ない加齢変化にも対応できる技術と材料を選択したい。患者さんのアレルギー問題も含め生体に調和させることにより、違和感が少なく健康美と機能美を回復させることが出来るものと思います。「食べること」「話すこと」「笑うこと」は「生きること」デンチャーは歯だけの修復ではなく、口腔の機能回復と審美を目指すもの口腔機能回復装置でしょう。そのようなデンチャーが生涯最後まで使っていただける“第三の歯”になるのではないのでしょうか。

専門課程

「総義歯設計から学ぶ部分床義歯設計考」

毎日の義歯製作において臨床の場での「悩み」は、初心者のみならず、ベテランでも経験することです。特に総義歯においては無くなってしまった口腔組織の3次元の空間に痕跡を見つけ出しその情報をもとに患者様の健康美と機能を表現していかねばなりません。義歯を成功に導くためには歯科医師と歯科技工士の連携が不可欠です。総義歯の設計を基準に共通な設計を理解し合うことが成功の近道となると私は思います。生体に調和させるべく固い模型で作業する我々の業は、気が付かないままに硬組織と粘膜を関与する軟組織の判断が薄れがちである。TodaDentureSystemから“義歯の設計”を今一度理解しながら、基礎的で実践的なデンチャーについて、今回は1本の欠損～総義歯に至るまでの基本的なパーシャルデンチャーの設計も踏まえてステップごとに生体を意識した感覚や技術を判りやすく悩みを解消しつつ解説できたらよいと思います。